

マルメ研修感想文

2016/07/02
アップルデンタルセンター
歯科医師 矢部 亨

ダン・エリクソン教授をはじめマルメ大学関係者の皆様、また熊谷崇先生をはじめ日吉歯科診療所、オーラルケア、名鉄観光など今回研修に関係する皆様に協力の元、大変貴重な学びの場を提供していただき誠にありがとうございました。

私が今回のセミナー参加する目的はカリオロジーについて学び直すこと、スウェーデンの歯科医療の現状を知ることでした。

現在、卒後5年目になり日々の臨床の中で病状の診査、診断からリスク評価から治療マネジメントにいたるまで本当にできているのか？今のままでは不十分なのではないかと思い改めてカリオロジーの基礎からリスク評価についても学び直したいと考えてマルメ研修を募集させていただきました。

実際に海外での歯科研修は初めてであり、今まで書籍や話で聞いていた予防先進国であるスウェーデンでの研修は驚かされることばかりでした。日本との医療制度（キャピテーションモデル）の違いから教育制度の違い、患者教育にいたるまで日本が学ぶべき点が多くあると感じました。また、今までに学んできたカリオロジーに関する論文の裏付けや実際の研究についての詳細の話を目的から研究の経過まで詳しく聞いたことはとても貴重な経験でした。

今回のセミナーでは各先生方が予防をベースとした医療哲学を持ち、口腔の健康を守ることがいかに価値があるかを熱意を持って話して下さったことがとても印象に残っています。医療の本質は何かを考えさせられ、私たち歯科医療従事者のあり方をスウェーデンという国の問題を今までの歯科に関する歴史から現状までの変化をなぜ今のような医療制度になったか、なぜカリオロジーという考え方が必要なかをわかりやすく伝えてくれました。私自身も日々の臨床の中で疑問に思うことに対してHow toばかりを気にしてしまい、裏付けとなる根拠が何かであったりそもそも治療の妥当性について知ろうとする努力が薄れていた気がします。医療従事者として、なぜ患者に対してこの医療が必要なのか、なぜ患者に問題が起こっているのかを冷静に考え患者に対してベストをつくせるよう日々学ぶ姿勢を持ち続けること重要性を考えさせられました。また、私たちはあくまで疾患を扱うのではなく、患者の口腔の健康を守り維持することの重要性を理解し患者に伝え提供するという大きな責任があります。スウェーデンと日本という国と文化、制度が違うにしてもこの医療哲学は共通するものがあり、今回学んだことを日々の臨床の中からより多くの患者に対して反映させていきたいと思います。

マルメ研修を通して自分の医療哲学を見直せたことは今後の歯科医師人生を歩む上でよいきっかけになる1週間でした。スウェーデンのようなキャピテーションシステムや、R2、ナショナルガイドラインなどの画期的なシステムの導入はすぐにできないまでも、患者のリスクアセスメントから患者教育、メンテナンスに対するモチベーション、日々の臨床の見直し等の改善を行っていき、1人でも多くの患者の健康に貢献と口腔の健康の価値の向上につながるよう努力していきたいと思います。

